

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193000047		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	上福岡グループホームそよ風 1F		
所在地	埼玉県ふじみ野市上ノ原1-5-8		
自己評価作成日	令和2年3月24日	評価結果市町村受理日	令和2年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9-103
訪問調査日	令和2年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームならではの特徴を活かし、一人ひとりのご利用者様の能力に合わせ、食事作りや洗濯物など、生活リハビリの一環として、日常生活の中で様々な方に参加していただけるよう努めている。また、その時々季節に合った、梅干し作り、干し柿、おはぎ作りを日常生活の中に取り入れ、ご利用者様が昔からしてきたであろう事を季節感も感じつつ懐かしんでいただけるよう取り入れている。また庭には畑や花壇を作り、自分たちで育て、作った野菜や花を楽しめるようにしている。法人としての催し物として「そよ風文化祭」というものがあり、今年度は受賞は逃したものの職員とご利用者様、共同で作品を作り上げた。今年度に関しては外出について強化をした。外出に関する意義の確認、意識の向上を図り散歩や外気浴を取り入れ、昨年度より多くの方が外に出る機会を設ける事ができた。また入浴に関しても数値化をすることで、より多くの方の入浴を実施することが出来た。また事業所内外で研修等を行い、質の高いサービスが提供できるよう引き続き取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新たなパンフレットには事業所の理念・「自信をもって掲げる3つの特徴」を掲載し、周知を図っています。
 ●残存能力の維持を心がけ、日々の生活の中で役割をもてるよう食事の準備等への参加に取り組んでいます。「今までできたことができなくなる」「出来なくなったことでの変化」についての理解に努めており、習慣や馴染みを大事にし、その人らしい生活が継続できるよう努めています。
 ●生活の中で利用者の意思を尊重し、自由な暮らしができるようサポートに努めています。日々のスケジュールにしばられることなく、プライバシーと拘りを大事にした家庭的支援の実践がなされています。
 ●初詣、花見などの行事計画を計画しており、日常生活の中に外出や日帰り旅行を取り入れ、楽しみをもてるよう取り組んでいます。安全と自由のバランスを測り、畑や花壇での栽培などなるべく外気を浴びることができるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの目の目につく場所に掲示し、確認は出来る。ただ内容を細分化し考える職員は少なく、目指しているケアから外れてしまうことがある	管理者が目指すケア方針が確立しており、利用者本位の支援や家庭的支援が実践されるよう指導にあたっている。新たなパンフレットには事業所の理念・「自信をもって掲げる3つの特徴」を掲載し、周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは言えない。自治会に入っているものの地域の行事には参加できていない。中学生ボランティアの受け入れはしている	中学校のチャレンジ学習の受け入れなど公共施設が集まる環境を利した活動がなされている。自治会行事の参加については、誘いをいただくなど積極的に参加していきたい意向をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じてでしか出来ていない。地域に向けた発信は必要だと感じている。中学生の職業体験で現場を見て頂いているが、理解をされているか不明		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、関係各所の方の参加がある。ただ職員には会議の内容は一部のみの報告で、サービス向上に活かされていない	社会福祉協議会、行政、地域包括支援センター、利用者等が参加し、開催がなされている。参加者からの質問に丁寧に応じ、ホームへの理解が深まるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の際の報告や、不明なところについては確認するようにしている。事業所の実情やケアについては運営推進会議を利用し伝えている	運営推進会議への招待等を通じて関係構築にあたっている。地域包括支援センター・社会福祉協議会等関係機関とも連携が図れており、地域密着型介護サービスとしての基盤がつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回、身体拘束廃止に向けた委員会を実施しているほか、年度に2回、身体拘束防止についての研修を実施している。防犯上、玄関の施錠はしている	身体拘束適正化・虐待防止委員会が年間4回、身体拘束廃止・虐待防止の職員向け事業所内研修が年に2回開催されている。認知症に対する理解と共に研鑽を深め、適切なケア実施への下地を整備するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一回、身体拘束廃止に向けた委員会と同様に実施しているほか、年に二回は虐待防止についての理解を深めるよう研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度の仕組み等については職員は理解に乏しいことが多い。管理者としては必要性を汲み取り、関係各所と連携を取っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約書、重要事項説明書、重度化・看取りに関する指針について説明している他、わからない所は随時、質問を受けつけている旨を伝えている。法改正で変わった内容については説明をし同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別に家族要望・連絡記録帳を作成して、利用者からの訴え、家族からの訴えを記録し、職員間の共有やケアプランへの反映に努めている	ケアプラン更新時等家族からの要望を聴取している。本評価に伴う家族アンケートでは感謝と賛辞、要望等々多岐にわたる意見が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全体会議を行い、運営についての報告をしている。また社長自ら職員に向けたメッセージの発信や意見を取るためのアンケートの実施を行っている	全体会議の開催により職員への指導事項の周知と意見の集約にあたっている。感染症対策についても本会議を通じて徹底が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場の大変さを理解し、現場優先で物事を考えている。特に職員を育てる仕組みづくりに力を入れ、適度に職員に仕事を振るようにもしている。また職場環境の整備として職員の補充にも力を入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年度で研修計画を立てている。法人内での研修では限られた職員しか参加が出来ていない状況ではあるが、実務者研修の開催など資格取得に向けた学校も設立した		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修を通じ、他事業所と交流を持つ機会を作っている。時には地方の事業所に行き、交流を持つことはあるが、限られた職員となっている		

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、実態調査等にてコミュニケーションを取り、本人の気持ちを傾聴できるよう努めている。本人から、また本人以外の関係者から話も傾聴し、情報を取り入れている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や問い合わせの際に、ご家庭で今何が一番困っているかを聞くようにしている。また実態調査時に家族や関係者より、これらの情報が聞き出せるような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、入居判定会議やカンファレンスを実施し、その方の状態に合わせ、まず何を必要としているのか話し合いをし対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者主導の介護を目指しているが、どうしても職員主導の生活となってしまう。生活作業など一緒に行う事は基本としている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有出来るよう努めている。面会時や月に一回近況をお知らせするお手紙を出している。又、何かあった場合はなるべく早く電話連絡するよう心掛けているが対応が後手後手に回ってしまうこともある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院は通い続け、馴染みの場所となった。ただ昔からの馴染みの場所への外出は難しくなった。手紙など人との関係を継続されている方はいる	中核症状とBPSDIについて事業所内研修を実施しており、「今までできたことができなくなる」・「出来なくなったことでの変化」についての理解に努めている。習慣や馴染みを大事にし、その人らしい生活が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況により職員がご利用者の間に入り会話を取り持ったり、ご利用者同士がトラブルにならないよう席の配置等にも気を付けている		

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に来所してほしいと家族には伝えているが、契約終了後は途切れてしまうご家族が多い		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者様との会話の中からご本人の意向に添うようにしている。ただ意思疎通が困難な方は態度や表情からその方の気持ちを汲み取るよう心掛けているが、不十分である	ケアプラン更新時には思い・求めていることを確認し、家族の要望とあわせて総合的な援助方針を立てている。重要事項説明書にも利用者の選択・趣向に応じた創作活動の場の提供等を約しており、ホーム全体で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から、情報を探りながら把握に努めている。またご家族から今までの生活歴を聞くこともある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、出来ないこと、手伝えば出来ることを把握し、力を引き出せるようにしている。出来なくなってしまった事に対しては、どうすれば出来るようになるかを話し合いをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族から要望を伺うようにしている。また定期的なカンファレンスで話し合いの場を設けたり、看護師からの意見も取り入れ介護計画を作成している	本人・家族の意向の把握、医療との連携の考慮等によりケアプランが策定されている。自立・生活へのサポートを目指した目標が立てられており、実践と職員間の意識共有に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や問題点はタブレットのみではなく、日誌にも記録を残し、情報を共有しながら見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望、又ご本人の状態に合わせて取り入れている。(マッサージ施術、宅配牛乳、新聞など)		

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の参加は無くなってしまったが、消防訓練への利用者の参加や図書館の利用、買い物など様々な地域資源を利用できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択はご本人やご家族の希望を確認している。事業所と契約している病院を選ばれた方には、かかりつけ医と事業所の関係を良好に、柔軟に行えるよう支援し、ご家族の意向も医師に伝えるようにしている	協力医療機関による往診と入居前からのかかりつけ医の受診を選択してもらい、健康管理にあたっている。ミーティング時にも利用者の健康状態や栄養摂取状況を共有し、ホーム全体で見守れるよう取り組んでいる。	服薬支援時の確認について指導がなされている。繰り返しの指導により徹底の意向をもっている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の状態や変化を伝え、適切な処置やアドバイスをもらえるようにしている。緊急性を要する場合にも連絡が取れる体制があり、また場合によっては訪問できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要か否かは、医師による医学的見地を元にご家族と相談し方針を立てている。実際に入院が必要なケースでもご家族の意思、ご本人の状態を考慮し施設内での治療も実施し、入院への負担(経済的、認知症、心肺機能)軽減に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来ること、出来ないこと、又医療行為にあたる事について、多職種による担当者会議を開催し、今後の方向性や役割を明確にしている	重度化と終末期の支援について指針を作成・説明し、同意を得ている。毎年度看取り介護について職員向け事業所内研修のテーマとし、研鑽にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修は行っているが実践訓練は稀な為、身に付いているかは不安である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は行っているが、いざとなった時、災害の規模やその時の状況にもよる為不安である。地域の協力を得る為にも日頃からの関係のあり方を考える必要がある	火災想定避難訓練等を実施している。実施後の評価において細かく考察がなされており、留意事項がまとめられている。	所在不明者発見に対する訓練を実施している。法人内他事業所等との連携や更なる検討が進められることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った言葉かけ、対応をしている。無理強いはいないようにしているが、意思表示が難しい方に対しては職員主導になってしまっている	生活の中で利用者の意思を尊重し、自由な暮らしができるようサポートに努めている。日々のスケジュールにしばられることなく、プライバシーと拘りを大事にしたケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から本人の思いや希望をくみ取ったり、いくつかの選択肢を出し自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室内においてご本人の意思、ペースで趣味や好きなことをされる方もいるが、職員の都合やペースになってしまうことも多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立度の高い方はご本人にお任せしている。明らかにそぐわない時は声掛けで着脱をすることもありますが、介助する方に対しては着やすい衣服を選ぶことが多く、また気候や気温にそぐわないこともある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を考え、なるべく多くの方が食事作りや後片付けに参加できるよう考慮したいが、特定の方、少数の参加になってしまっている	残存能力の維持を心がけ、日々の生活の中で役割をもてるよう食事の準備等への参加に取り組んでいる。食卓は利用者同士の関係を考慮し、席配置等に配慮に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は随時記録に残し、確認しながら摂取量が確保できるよう支援している。又、その方の好みに合わせ提供している。栄養面は専門職がないので何とも言えない		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科のアドバイスを参考に口腔ケアについて学んでいる。ただ毎食後全員が出来るわけではなく、口腔ケアの必要性について、再度意識する必要がある		

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせ声掛けや誘導を行っている。全介助の方も、特別な方を除きトイレでの排泄介助に努めているが排泄の自立については再度意識する必要がある	ICTシステムをかつようし、排せつ等日々の支援を記録しており、効率的な活用にあたっている。ケアプランに排せつの自立と清潔の保持を掲げるなど、支援と向上に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維物、又便秘茶などを摂って頂くなど工夫している。それでも無理な場合は服薬になってしまう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を確認し声掛けしている。無理強いはしないようにしているが、本人が気持ちよく入浴できるような促しや声掛け、工夫が必要。前日より声掛けすることで、翌日入浴される方もいる	定期的な入浴を実施に取り組んでおり、あわせて清潔な衣類の着用・水分摂取量の管理を実施している。リラックスして入浴してもらえるよう配慮と工夫に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせ体力や疲れを緩和するため、お昼寝等支援している。又、気候に合った寝具にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法用量に関しては医師の指示、また薬剤師からの指導のもと行っているが副作用については詳しくは把握出来ていない。服薬が変わる場合は申し送りなどで共有し、経過観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りの手伝いや洗濯物等、その方に合った役割をお願いしているが、職員の裁量で時間を持て余してしまっている方もおり、参加される方も偏ってしまっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や買い物など戸外に出る機会を作っている。又、利用者様から散歩に行きたいと要望がある時は出来る限り添えるようにしている	初詣、花見などの行事計画を計画しており、日常生活の中に外出や日帰り旅行を取り入れ、楽しみをもてるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価【1F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方はご自身の管理で財布を持ち、買い物に行った際支払いされている。(見守り支援)お小遣いが欲しいと要望があれば範囲内でお渡している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特定の方に限った支援となってしまっているが、手紙や電話の支援はある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節のものを飾ったり、四季を感じられるよう努めている。席替えなどは、環境の変化が生じ、悪い影響が出てしまうため、慎重に行っている	新型コロナウイルス対策においては法人の指導に従い、面会の制限、備品の整備等適切な対処に取り組んでいる。また玄関の工事を行うなど設備の補修等により住み心地のよい空間となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席を配慮したり、ソファや畳を活用しているが、独りの時間は居室で過ごされる事が多い		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり趣味の道具、タンス等、本人が使っていた馴染みの物を持ち込んで頂いている	利用者がプライベートに過ごせる居室が用意されており、自由に過ごすことを可能としている。また一方で独歩できない利用者に対しては見守りと手引き歩行により安全な生活を確保できるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札や、トイレ等の表示を、見えやすく、分かりやすくしている。ポット等も自由に使えるよう配置している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193000047		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	上福岡グループホームそよ風 2F		
所在地	埼玉県ふじみ野市上ノ原1-5-8		
自己評価作成日	2020年3月24日	評価結果市町村受理日	令和2年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9-103		
訪問調査日	令和2年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームならではの特徴を活かし、一人ひとりのご利用者様の能力に合わせ、食事作りや洗濯物など、生活リハビリの一環として、日常生活の中で様々な方に参加していただけるよう努めている。また、その時々季節に合った、梅干し作り、干し柿、おはぎ作りを日常生活の中に取り入れ、ご利用者様が昔からしてきたであろう事を季節感も感じつつ懐かしんでいただけるよう取り入れている。また庭には畑や花壇を作り、自分たちで育て、作った野菜や花を楽しめるようにしている。法人としての催し物として「そよ風文化祭」というものがあり、今年度は受賞は逃したものの職員とご利用者様、共同で作品を作り上げた。今年度に関しては外出について強化をした。外出に関する意義の確認、意識の向上を図り散歩や外気浴を取り入れ、昨年度より多くの方が外に出る機会を設ける事ができた。また入浴に関しても数値化をすることで、より多くの方の入浴を実施することが出来た。また事業所内外で研修等を行い、質の高いサービスが提供できるよう引き続き取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールの目の目につく場所に掲示し、確認は出来る。ただ内容を細分化し考える職員は少なく、目指しているケアから外れてきてしまっている。理念を意識している職員も少ない		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアや中学生の職業体験等、受け入れているが、自治会への参加や買い物の回数も減り数年前に比べ、とても減っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じてでしか出来ない。地域に向けた発信は必要だと感じている。中学生の職業体験で現場を見て頂いているが、理解をされているか不明		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っているが、会議の内容は一部のみの報告で、サービス向上に活かされていない		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の際の報告や、不明なところについては確認するようにしている。事業所の実情やケアについては運営推進会議を利用し伝えている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一回、身体拘束廃止に向けた委員会を実施しているほか、年度に2回、身体拘束防止についての研修を実施している。防犯上、玄関の施錠はしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会をおこなっている。小さなあざや傷も書類に残し職員で共有し不適切なケア防止にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度の仕組み等については職員は理解に乏しいことが多い。管理者としては必要性を汲み取り関係各所と連携を取っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、契約書、重要事項説明書、重度化・看取りに関する指針について説明している他、わからない所は随時、質問を受けつけている旨を伝えている。法改正で変わった内容については説明をし同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別に家族要望・連絡記録帳を作成して、利用者からの訴え、家族からの訴えを記録し、職員間の共有やケアプランへの反映に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全体会議を行い、運営についての報告をしている。また社長自ら職員にあてたメッセージの発信や意見を取るためのアンケートの実施を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場の大変さを理解し、現場優先で物事を考えている。特に職員を育てる仕組みづくりに力を入れ、適度に職員に仕事を振るようにもしている。また職場環境の整備として職員の補充にも力を入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年度で研修計画を立てている。法人内での研修では限られた職員しか参加が出来ていない状況ではある。法人としては実務者研修の開催など資格取得に向けた学校も設立した		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修を通じ、他事業所と交流を持つ機会を作っている。時には地方の事業所に行き、交流を持つことはあるが、限られた職員となっている		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、実態調査等にてコミュニケーションを取り、本人の気持ちを傾聴できるよう努めている。本人から、また本人以外の関係者から話も傾聴し、情報を取り入れている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や問い合わせの際に、ご家庭で今何が一番困っているかを聞くようにしている。また実態調査時に家族や関係者より、これらの情報が聞き出せるような関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず何を一番に優先するかを基本において、そこから幅広くケアに繋げていけるようにしている。介護保険サービス以外にも、必要に応じたサービスを利用できるよう、ご家族に説明はしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活作業等、一人で出来るもの、職員と一緒にすれば出来るもの見極めをし、ご利用者が日々の生活の役に立てているなど、役割を持って生活していただけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こちら側から相談をしたり、されたりと、ご家族様と職員で、一緒に支えている関係を築いていけるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院は通い続け、馴染みの場所となった。ただ昔からの馴染みの場所への外出は難しくなった。手紙など人との関係を継続されている方はいる		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室への行き来は自由にしていただき、隣席同士の方等には見守りや仲介をすることで、利用者同士の会話ができるよう関係づくりを心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は途切れてしまうご家族が多いなか、終了後も連絡を下さったり、お礼の品を送って下さる方もいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握に努めており、ご自分で発信出来ない方へは趣味や生活歴、ご家族様から情報をいただくようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から、情報を探りながら把握に努めている。またご家族から今までの生活歴を聞くこともある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、出来ないこと、手伝えば出来ることを把握し、力を引き出せるようにしている。出来なくなってしまった事に対しては、どうすれば出来るようになるかを話し合いをしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングを開催し、ご利用者ごとに意見交換をしている。家族には面会時に要望をお聞きし介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や問題点はタブレットのみではなく、日誌にも記録を残し、情報を共有しながら見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況は日々変化は生じるもの。その中で突然起こる受診などは家族に代わって病院への受診をすることもある。介護保険の申請も行っている		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の参加は無くなってしまったが、消防訓練への利用者の参加や図書館の利用、買い物など様々な地域資源を利用できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択はご本人やご家族の希望を確認している。事業所と契約している病院を選ばれた方には、かかりつけ医と事業所の関係を良好に、柔軟に行えるよう支援し、ご家族の意向も医師に伝えるようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の状態や変化を伝え、適切な処置やアドバイスをもらえるようにしている。緊急性を要する場合にも連絡が取れる体制があり、また場合によっては訪問できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要か否かは、医師による医学的見地を元にご家族と相談し方針を立てている。実際に入院が必要なケースでもご家族の意思、ご本人の状態を考慮し施設内での治療も実施し、入院への負担（経済的、認知症、心肺機能）軽減に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来ること、出来ないこと、又医療行為にあたる事について、多職種による担当者会議を開催し、今後の方向性や役割を明確にしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練(AED)は行っているが急変時にすぐに訓練の成果が発揮できるかどうかは不安である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は行っているが、いざとなった時、災害の規模やその時の状況にもよる為不安である。地域の協力を得る為にも日頃からの関係のあり方を考える必要がある		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し接しているつもりだが、時には不適切な表現での会話している時もあると思う。研修やミーティング、不適切チェックシートの実施で再確認している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択が出来るような言葉の投げかけや本人の思いを会話の中から見出したりしている。決定の出来ない利用者様にはこちら側の一方通行になっている場合もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度は一人ひとりのペースを大切に支援しているが、希望に添えているとはいえない。一人ひとりの思いや希望を取り入れる必要がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	軽度の方は自身で行えているが、認知症の進行と共に今までご自分で行っていたお化粧やエプロンの着用が出来なくなってしまっており、十分に支援しているとは言えない		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を考え、なるべく多くの方が食事作りや後片付けに参加できるように考慮して役割を配分している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に応じて量の確保や食べ物 の固さ水分量のチェック、又は道具を使用したりと様々な工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科のアドバイスを参考に毎食後、本人の力に応じた口腔ケアをしている。舌の汚れを取り除くことは難しく感じている		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄の時間を設定し誘導している。日中だけでなく夜間もオムツを使用せずトイレでの排泄を促し自立支援をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すお茶、オリゴ糖、牛乳等飲み物で工夫しており、下剤の使用が減っている方もいる。運動への働きは不十分		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の人数は数値化することで、より多くの方が入浴できるようにはなったが、職員都合のペースになることもある。お湯の温度が希望に添えないこともある。ゆずや入浴剤で楽しめるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は30分から1時間ほど臥床時間を提供している。冬は湯たんぽを利用したり、照明など個々の対応をとっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員ではないが理解しており、不必要な薬は主治医に相談し見直しをしている。薬の変更があった場合は職員間の共有、経過を観察し、主治医や家族に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活作業全般、出来る方が多くいるため、時間を持て余す事がある。役割や得意分野を活かせるよう個々の能力に合わせた役割分担をする必要がある。また役割や生活作業を多く作り、より多くの方が参加できるようにしたいが、職員によっては偏りが出てしまう		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等日常的な外出は昨年度に比べ、大幅に改善はした。ただ日によって違いはあるが、外出が同じ人に偏ってしまっている。ご家族が散歩に同行して下さることもある。外気浴に関しては多数の方に参加していただいている		

自己	外部	項目	自己評価【2F】	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際に自分でお金を支払ったりお小遣いを管理出来ている人もおり、買い物やお金を使う楽しさを感じている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケータイ電話を持参して入居された方もいるが、いつの間にか使用されなくなってしまっている。一部の方は手紙のやり取りをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り物の掲示や表札、又、一日に数回空気の入替えをすることで温度差を感じ、季節感を損なわないようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳で新聞を読んだり、居室でゆっくり新聞や読書などご自分の時間を持っている方もいる。気の合う利用者さんを居室へ招き過ごされている方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり趣味の道具、タンスなどの家具、本人が使っていた馴染みの物を持ち込んで頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はご利用者様の混乱がないよう配置など環境面に気を付けている。1Fと2Fは自由に行き来でき1F2Fの方と交流が持てるようにしている		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	事故や急変時からの対応や判断が欠如している。医療機関との連携やご家庭への適切な連絡が後手後手になったり不十分などところがある。また重大事故につながる前の対応策としてのヒヤリハットの活用が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> 事故や急変時にもご家族が安心できる対応や判断、報告が出来る。 タイムラグのないご家族への報告連絡の実施・ヒヤリハットの活用による事故防止。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故や急変時にご家族への分かりやすい説明をし、医療関係者や介護従業者からの目線ではなくご利用者やご家族目線での行動や言動に配慮する。 ご家族への報告はタイムラグが発生しないように早めの連絡をする。また限られた職員だけではなく、その日の勤務者が必要時に適切な連絡ができるようにする。 事故や急変などの悪い連絡ばかりでなく、回復したなど、ご家族が安心出来る良い状況連絡もする。 ヒヤリハットの件数を増やすことで、重大事故の防止を図る。 	3ヶ月
2	4	運営推進会議の職員への報告が一部のみとなっている。また職員の中には、何のために開催しているのか、運営推進会議の意義を分かっていない職員もいる。	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の意義を全職員が理解できる。 地域の方からの話し合いや意見をサービスに活用出来るようにする。 	<p>全体会議の場を利用し、運営推進会議の意義の説明をし、運営推進会議の議題や地域の方からの意見を報告する。また地域の方との話し合いや指摘をサービスに活用できるのか検討をする。</p>	3ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。